2010 年度報告書（研究員）

| 氏　名 | 戸江哲理 |
|---|---|
| 職　位 | 短時間研究員 |

研究概要

調査対象の子育て支援サークルのひとつで、常連利用者の母親 9 名に対してインタビュー調査を実施した。インタビューの内容は、子育て支援サークルで知り合った母親たちとの関係・子育て支援サークルを利用する意義・利用の様態などであった。

インタビューをした 9 名の母親たちは、グループ化した 5 名の母親たちとグループ化していない 4 名の母親たちに分けられた。現段階までに、これら 2 つのタイプの母親たちの比較を視野に入れながら、前者のグループ化した母親たちの検討に重点を置いた検討を行い、次のような知見を得た。

（1）グループ化した母親たちにとって、X を利用することはグループの他のメンバーと会うことと同義である

（2）グループ化していない母親たちにとって、X を利用することは他の母親たちと話をし、話を聞き、他の子どもの成長・発達の様子を知る場である。だが、X 以外の場所で他の母親たちとつながりをもつことを望んでいない

（3）グループ化した母親たちが親しくなった理由として、次の 5 つを挙げることができる。①子どもの月齢の近さ、②子どもの性別が同じ、③社交的なメンバーの存在、④お互いの住まいの適度な距離、⑤親どうしの相性

以上の知見を踏まえて、以下のような若干の考察を行った。

（1）グループ化した母親たちは、必ずしも子ども中心で自分たちの交友を形成していない。むしろ一見、子どもの都合と思えることにも、母親の都合が入り込んでいる。その意味で彼女たちの交友は、母親アイデンティティから一定の距離を置いている

（2）グループ化していない母親たちは、他の母親たちとの深い付き合いを望んでいない。むしろ深い付き合いは負担（しがらみ）と感じられる

（3）母親たちがどのような付き合いを望むかは、母親という役割・立場や母親の社会的属性（母親の年齢・実家との距離等）と並んで、母親たちの友達付き合いの来歴と関連している可能性がある

（4）子育て支援サークルは、比較的深い付き合いを望む母親たちが付き合いを構築・維持・発展させる場として役立っている。同時に、深い付き合いを望まない母親が浅い付き合いを繋ぎ止める場としても役立っている

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

**［報告］**

戸江哲理，2011，「つながりとしがらみ――乳幼児をもつ母親どうしの交友」『京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」』2010 年度研究成果報告会，京都大学，2011 年 2 月 22 日．